

「あなたを好きになってしまった」 ——時空を超える〈応答〉としての文学——

*Я полюбила Вас :
Литература как «отклик» сквозь пространство и время*

2025年10月25日(土)15:05-16:05

東京大学駒場キャンパス 21 KOMCEE East K011教室(地下1階)

登壇者

沼野恭子

(東京外国語大学名誉教授、
放送大学客員教授)

【講演概要】

時間と空間の分厚い壁を突き抜けて読者のもとに届けられる作品たち。詩人や作家がそれらを受け取ったときの反応はさまざまです。影響を受ける、真似をする、無視する、借用する、新しく作り変える、対話を試みる……。アンナ・アフマートワとマリナ・ツヴェターエワはどんなふうに呼び交わしていたのでしょうか。レオニード・ツイプキンはドストエフスキーにどのように対峙したのでしょうか。ボリス・ピリニャークは先行作品をどう考えていたのでしょうか。ボリス・アクーニンと中里恒子との不思議な出会いとは？ 私がこれまで関わった仕事を織りこんで具体的な例を挙げながら〈応答〉のさまざまな形をご紹介します。優れた作品が未知の読者に放たれる「投壘通信」であることを示すことができると考えています。

沼野恭子

未知の読者たちへの

「ボトルメール」

としての作品



【略歴】

東京外国語大学卒業、東京大学大学院博士課程満期単位取得退学。NHK国際局ロシア語放送ディレクター、ハーバード大学講師を経て、東京外国語大学教授（2008－2023）。著書に、『アヴァンギャルドな女たち』（五柳書院）、『夢のありか——「未来の後」のロシア文学』（作品社）、『ロシア万華鏡——社会・文学・芸術』（五柳書院）、『ロシア文学の食卓』（ちくま文庫）等。

共著に、『世界の食文化⑨ ロシア』（沼野充義と共著、農山漁村文化協会）、『アレクシエーヴィチとの対話——「小さき人々」の声を求めて』（鎌倉英也、徐京植と共著、岩波書店）等。

訳書に、リュドミラ・ウリツカヤ『ソーネチカ』（新潮社）、ボリス・アクーニン『リヴァイアサン号殺人事件』（岩波書店）レオニード・ツィプキン『バーデン・バーデンの夏』（新潮社）、リュドミラ・ペトルシェフスカヤ『私のいた場所』（河出書房新社）、アンドレイ・クルコフ『灰色のミツバチ』（左右社）等。



©共同通信社

沼野 恭子

【会場案内】

東京大学駒場Ⅰキャンパス

21 KOMCEE East K011教室（地下1階）

【アクセス】

京王井の頭線・駒場東大前駅より徒歩0分です。東口改札から出て正門に進んでください。お車でのご来場はできません。

